平成３０年６月４日

清水町議会議長　加　来　良　明　様

清水町議会厚生文教常任委員会
委員長　　安　田　　薫

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

１．調査事項　　清水高等学校の振興策について

２．調査期日　　平成３０年５月２９日

３．調査の結果

今年の高校入試で清水高等学校に定員割れが生じた。４間口維持のための対応策を考えるために、清水高等学校振興会への支援等を通じた清水高等学校の振興策について、学校教育課から説明を受けて調査を実施した。その後、清水高等学校の取り組み状況を把握するために学校を訪問し、学校長等と意見交換を行って調査を実施した。

【学校教育課】

学校教育課より、補助団体である清水高等学校振興会への支援内容及び高等学校配置計画検討資料を中心に説明を受けた。清水高等

学校振興会は、清水高等学校が平成９年４月に総合学科に転換されることに伴い、将来にわたり魅力ある学校であるために各種支援を行うことを目的に、平成８年６月に設立された。清水高等学校振興会は、清水町からの補助金を受けて、清水高校生全員を対象に卒業後の進路実現を支援する活動を行っている。具体的には、資格取得検定料・模擬試験の一部補助など、進学・就職に有利となる資格取得、大学進学への実力を試す模擬試験を生徒に積極的にチャレンジしてもらうことを応援する活動を行っている。平成 29 年度の補助金は 254 万円（看板代含む）であり、その内 174 万円が進路支援費であり、実績として延べ 363 人（全校生徒 383 名中）の生徒が補助を受けている。その他、進学講習テキスト代・インターネット進路講習受講費用補助、進路開拓・学校訪問等の支援、総合学科通信・学校案内の製作支援など、清水高等学校の様々な活動を清水高等学校振興会がサポートしている。

看板代は28年度

平成 30 年度は、清水高等学校が総合学科になってから 20 期生が卒業する節目の年であり、特色である生産技術系列の成果を町の活性化に活用していくための事業も計画されており、清水高等学校の４間口維持の必要性から、清水高等学校振興会の活動を更に支援するために、町からの補助金を146万円増額して400万円としている。増額分の支援内容は今後清水高等学校振興会の役員会を経て総会で決定することになっているが、現時点で清水高等学校と協議している内容としては、清水町国際交流協会が実施しているアメリカのチェルシーとの派遣事業を清水高校生まで範囲を広げて旅費の補助ができないか、インターネット進路講習への支援として、大学進学等を目指す生徒が受講する「スタディサプリ」の年間受講料（約１万円）の半額補助のほか、タブレットを 25 台程度設置し生徒が自由に使いやすい環境で講習を受講することで、進学や公務員試験対策などに役立ててもらえないかなどについて考えられている。

また、今年４月から、清水高校行きのスクールバスに「屈足セイコーマート前」から乗車（7:34 発）できるようになっている。運賃は無料で、放課後の帰りのバスも停車（16:34 着）するので、通学

に大変便利となっている。

続いて、4月に開催された十勝管内における平成30年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会で説明された中学校卒業者の状況と、十勝学区の進学者の状況について説明を受けた。本町における平成30年度の卒業者数は81名で、平成37年度は64名と推計されており17名が減るとされている。十勝学区における進学者の状況の速報値について、今年の清水高等学校への入学者97名の内訳は、帯広市から30名、芽室町から25名、新得町から4名、清水町が35名、学区外から3名となっている。昨年度との比較については、帯広市からが24名の減、音更町からが3名の減、芽室町からが4名の減、新得町からが4名の減となっている。今年の入学者数が大幅に減った要因としては、帯広市内の私立高校に定員よりもかなり多くの生徒が入学しており、その影響が大きかったものと推測している。学校教育課においては、今後も清水高等学校振興会に対する補助の継続を行い、清水高等学校における幅広い進路希望に対応が可能となるよう、間口の維持継続に向けて引き続き支援をしていきたいと説明された。

【清水高等学校】

学校長から、平成30年度入学者選抜実施状況及び卒業生の進学・就職状況等の学校の概要と清水高等学校の4間口維持に向けて魅力を一層高めるための取り組み状況等について説明を受けた。その後、高校内の施設の案内を受けるとともに、6月10日のＪＡ十勝清水町主催の十勝若牛アスパラ祭に生産技術系列の生徒が出品する商品の開発中の教室に案内され、その学習状況の見学と十勝若牛と地元産小麦を使った「カルツォーネ」を試食させていただいた。

平成30年度は、入学者97名となり学校の定員としては3学級であるが、高校として4学級に編成して運営しており、教職員は1名減であるが昨年並みの総合学科の体制を継続している。

過去3か年の入学者の状況を見ると、平成28年度は143名、平成29年度は135名、平成30年度は97名と今年度は100名を割り大

きな減少となった。平成30年度の入学者の状況を詳細に見ると、清水町からの入学者は概ね昨年度と同様の人数で推移しており、昨年との比較ではむしろ多く、帯広市、芽室町、新得町、音更町などの町外からの入学者が大きく減っている状況にある。

清水高等学校における昨年度の取り組みについては、生徒募集活動状況として、中学校訪問は、第1回17校、第2回25校、第3回24校、学校説明会等は12回行っている。教育活動連携事業については、公開授業2回、清水町及び外部団体連携事業としては、町教育委員会と連携した「くらしのステップアップスクール」、清水幼稚園・第一保育所との連携、ＪＡ女性部との連携を行っている。部活動の連携状況としては、茶道部による国際交流事業に伴う茶道指導・清水町文化祭でのお茶会、ボランティア部によるせせらぎ荘・第一保育所への訪問などを実施している。また、学力向上連携等の取り組みとして、小中学校それぞれの教育活動をサポートする取り組みを行っているが、生徒にとってはアウトプットの機会となりコミュニケーション能力を高めることに一役買っており、今後も積極的に行っていきたいとのことである。酪農学園大学とはセミナー参加や講義を受けるなどの高大交流にも取り組まれている。

進路指導活動について、卒業生の進路状況としては、今年は3名が国公立大学へ進学しており、その他46名が私立大学、短大、専修・各種学校に進学し、64名（就職決定率97%）の就職が決定している。部活等の諸活動は全国大会入賞常連のアイスホッケー部を始め、陸上競技部、バドミントン部、ソフトテニス部、弓道部、卓球部も活躍している。文化系でも書道部、美術部、演劇部、図書局、ボランティア部、新聞局、放送局が高文連等で活躍している。そのほか生産技術系列では、「パン甲子園」と「とかちマルシェ料理甲子園」に出場し、それぞれ準グランプリ・優勝の成績を収めている。

清水高等学校の魅力を一層高めるための取り組み状況については、今年度の入学者減という状況を踏まえて、近隣中学校長より聞き取りを行っている。「総合学科の趣旨には一定の理解が得られ、中学校からの期待は大きい」「中学生の保護者等からの本校の教育活動

の評価は非常に高い」という評価が得られているが、課題としては、「各系列での学習内容と進路先との関連が見えづらい」「本校の日常の取り組みや創意工夫ある実践などが充分伝えられていない」などが挙げられ、アピールの仕方が課題であるとの指摘をいただいている。また、保護者からのアンケート調査を集計分析した結果、「入学させてよかったと思いますか？」との設問に対して「はい」との回答が66.7%と半数を超えているが、「高校の選択について相談を受けたとき清水高校を勧めますか？」の設問に対しては「はい」との回答が45.8%で半数を切り、「その他」が52.1%となっており、一歩進んで積極的に勧めるところまでいけるように、これからは良い面でのアピールをしっかりしていきたいとのことである。

また、平成30年1月に「しみず（４３２）の『縁』プロジェクト」を設置し3か月で解散するまで改革のための検討を行い、平成30年度の学校経営の基本方針等に反映している。重点事項と具体的方策として「教科・系列の連携による社会で通用する人材育成」「ＩＣＴ活用による働き方改革・学び方改革」「地域との具体的な連携による開かれた学校づくり」の３つの柱に整理し、高校の魅力を高めるために、「教育内容の充実」と「教育活動の発信力の強化」の２項目の取り組みを推進するとしている。教育内容の充実としては、「地域連携の推進」「文化・スポーツの活性化」「国際化や情報化に対応する人材育成」の３つに取り組むこととしている。特に「文化・スポーツの活性化」は部活動の魅力化の部分で重要であり、教員の専門性と部活動がマッチしない部分について、町教育委員会に相談し、演劇部の顧問にはボランティアコーチの方に来てもらっている。教育活動の発信力の強化としては、「本校ホームページのこまめな更新を可能とする体制の構築」「本校の特色ある教育活動の新聞などへの情報提供と取材依頼」に取り組むこととしている。以上の取り組みについては、今までやってきたことをベースに更に充実させていく内容となっている。

【総括】

今年度の入試で清水高等学校は定員割れとなったが、学校教育課や清水高等学校の説明によると、特に町外からの入学者が少ない状況であることが分かった。入学者減少の要因としては、私立高校で入学者の確保に力を入れており、その情報量が多かったことが大きな要因ではないかと言われている。清水高等学校からの聞き取りから、例えば、帯広市には普通科と職業科の両方があり、芽室町には職業科がない。そういった地域性を考慮しながら、説明会の際にはＰＲする重点を変えて工夫することが重要とのことであった。今後は、帯広市及び新得町などの近隣町村からのニーズを把握しつつ、学校訪問をしっかり行うとともに、ＰＲ方法を工夫し、魅力ある高校として認められて入学してもらえる努力が必要である。また、今年度から新得町屈足までバスを配車する取り組みが行われている。今後に向けて１人でも多くの生徒が入学してもらえるように努力をしてもらいたい。

教育活動の充実については、総合学科の特色である多様な進路に対応しているが、「進路チャレンジクラス」を開設し、大学進学、医療・看護系の進学又は就職、公務員、学科試験が課せられる就職など高い学力を必要とする進路に対応した授業も行っているし、今後、地域との連携を更に推進し、商業、農業、福祉を関連づけた地域貢献学習の企画に取り組むとしている。文化・スポーツの活性化として、地域の優れた人材をボランティアコーチとした部活動の活性化を掲げており、既に演劇部等で地域の方にボランティアで指導いただいている。今後は他の部活動においても町教育委員会との連携を深めて、ブラスバンドや野球など、中学校において活発な文化・スポーツを高校でも継続できるような体制が必要である。国際化や情報化に対応する人材育成については、先程述べたとおり、清水高等学校振興会では、インターネット進路講習への更なる支援とチェルシーへの派遣事業を検討しているとのことである。

教育活動の発信力の強化については、ホームページのこまめな更新を可能にする体制の構築や、特色ある教育活動などへの情報提供

と取材依頼に取り組むとしている。清水高校においては既にスポーツ系や文化系とも部活動については活躍しており、日常の素晴らしい取り組みや創意工夫をしている実践などについて、新聞への掲載などにより効果的な広報ができると、生徒募集への大きな力になる。今後においては、こまめな情報提供など、発信力の強化も重要である。

町は清水高等学校振興会を通じて、補助金を増額して支援を強め、清水高等学校も魅力を高める取り組みとして、振興会と協議をしながら、教育活動の充実や発信力の強化に前向きに取り組むという姿勢を鮮明にしていて評価できる。

本町の活性化にとって、清水高等学校の４間口維持は重要な課題であり町を挙げて取り組むべきである。特色ある総合学科の質的向上を目指し、清水高等学校、高校振興会、町（教育委員会）の３者が連携して清水高等学校の魅力を高める取り組みに向けて更なる努力をしてほしい。